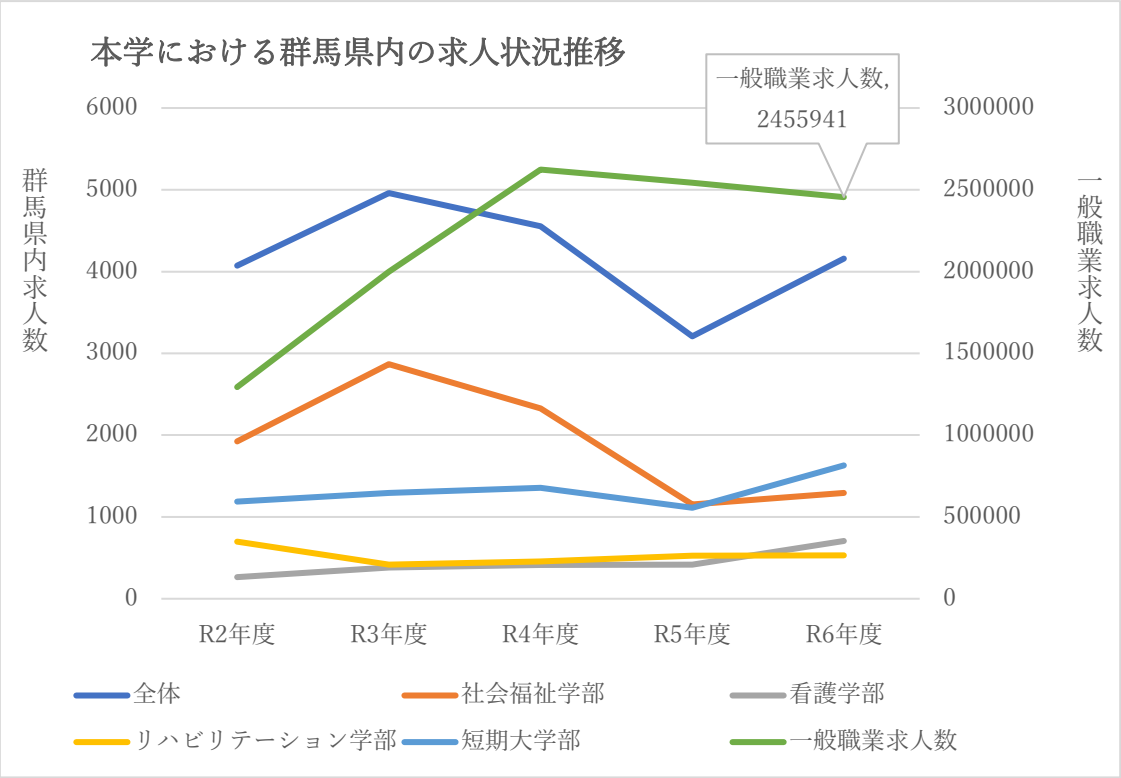
群馬医療福祉大学・短期大学部　進路状況推移

厚生労働省と文部科学省では、令和 6 年度大学等卒業予定者の就職内定状況等を把握するため、令和 7 年 2 月 1 日時点における就職状況の調査を行っている。この調査によると、大学の就職内定率は 92.6%（前年同期比 1.0 ポイント上昇）、短期大学の就職内定率は 84.9%（前年同期比 0.8 ポイント低下）となっている。

一方で、同時点での本学の内定率は大学 94.5%、短期大学部は 95.6%となっており、全国と比較しても高い値となっている。また、令和 6 年 4 月 1 日現在においては、大学・短期大学とも内定率 100%に達している。

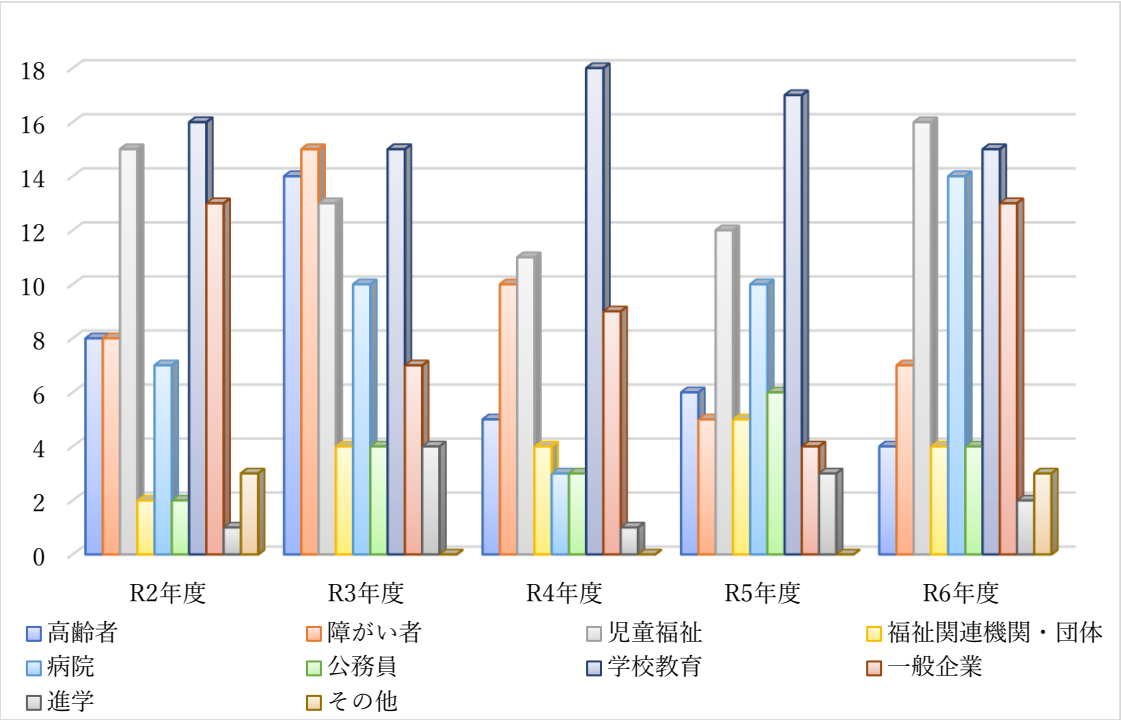
本学に寄せられる求人職種は多岐に渡っており、学部により就職先も様々である。各学部の求人数推移について過去 5 年分を以下のグラフに示す。次に、過去 5 年間の就職先について「就職先と就職者数」の推移を学部ごとに示す。

【本学における求人数と一般職求人数の推移】



【各学部における就職先と就職者数の推移】

◆社会福祉学部



社会福祉学部は他学部に比べ、進路先が広範囲に渡っている。例年公務員志向が強いため、公務員等対策委員会と協力し、継続的な支援が必要となる。短期大学部からの編入生が多く在籍している年度は比較的介護現場での就労意識が高いと思われる。

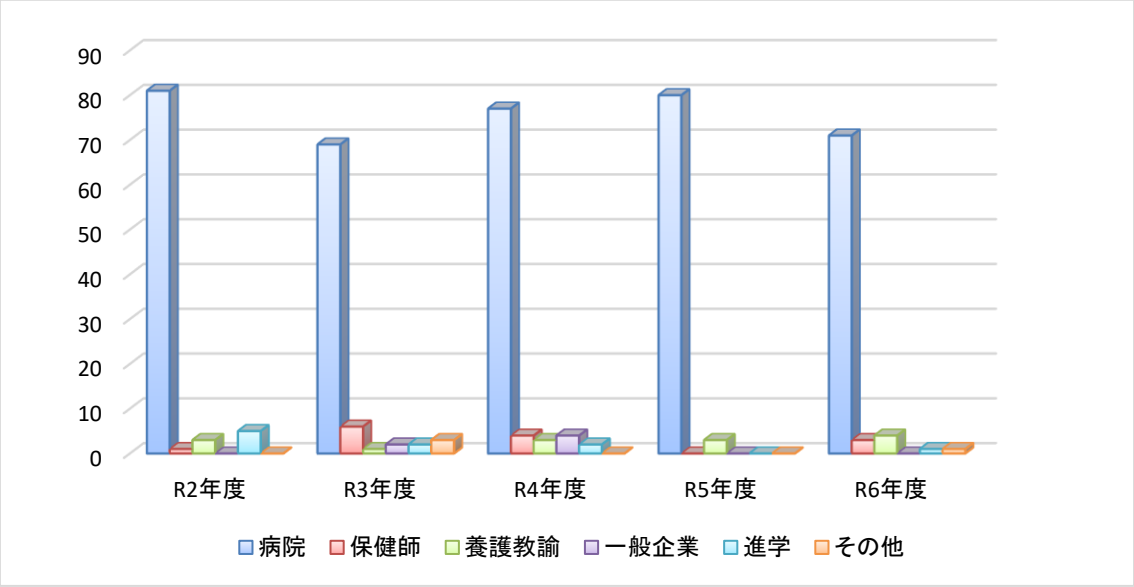
社会福祉士・精神保健福祉士の活躍の場は医療施設・福祉施設・介護施設の他に、学校や少年院などもあり、多くの分野に跨っている。それぞれの場所から幅広く需要があり、本学の求人推移を見ても令和 2 年度から高い値を維持している。

また、厚生労働省の調査によると、近年の保育士の有効求人倍率は 2.49 倍となっており、全職業の有効求人倍率が 1 倍程度であることから、依然高い水準で推移している。少子高齢化が進む日本の現状を見ると、子どもの数が減少していることから保育士の需要も減少すると考えられるが、需要はどんどん高まっており、保育施設の将来性は、介護と並んで高いものだと言える。

例年、小学校教諭や特別支援学校、高等学校福祉科教諭を目指す学生も多く、卒業後それぞれの場で活躍している。

本学における社会福祉学部の求人倍率（群馬県内）は例年高く、令和 6 年度は約 10.94 倍と非常に高い値となっている。

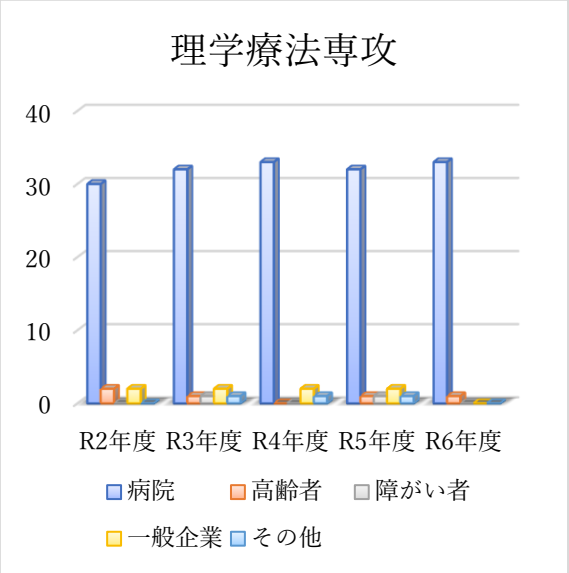
◆看護学部

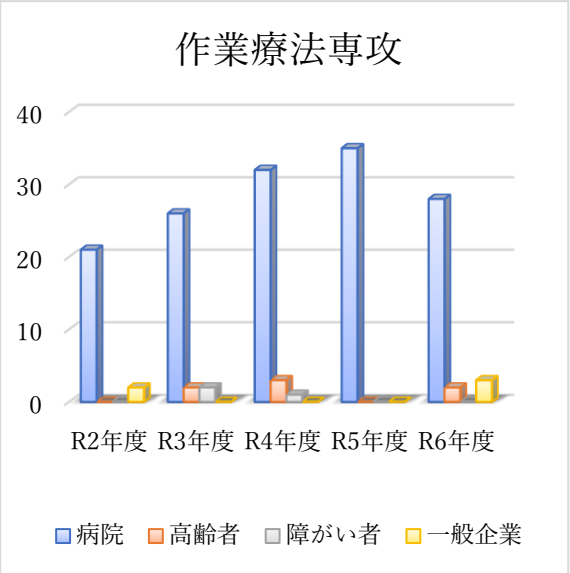


看護学部は他学部と比べ、求人募集や就職活動の動きが早く、5 月末時点での内定率とその後の内定率では 10%程度しか変わらない。日本看護協会の統計資料によると、看護職員の就労数は年々増加傾向にあるものの、近年の新型コロナウイルスの影響による医療従事者の需要は急速に増加しており、供給が追い付いていない状況にある。ここ数年の本学看護学部における有効求人倍率（群馬県内）は 6～9 倍程度を推移しており、高止まりの状態が続いている。さらに全国から求人があり、本年度においては、9,000 人を超える求人数となっている。

また、急性期の医療から、介護施設、在宅医療、訪問看護や地域包括ケア事業施設における看護まで幅広い分野での需要が高まっている。今後、更なる高齢化にともない介護関連施設等での需要の増加が見込まれており、特に看護師の人手不足は一層深刻になることが予想される。

◆リハビリテーション学部





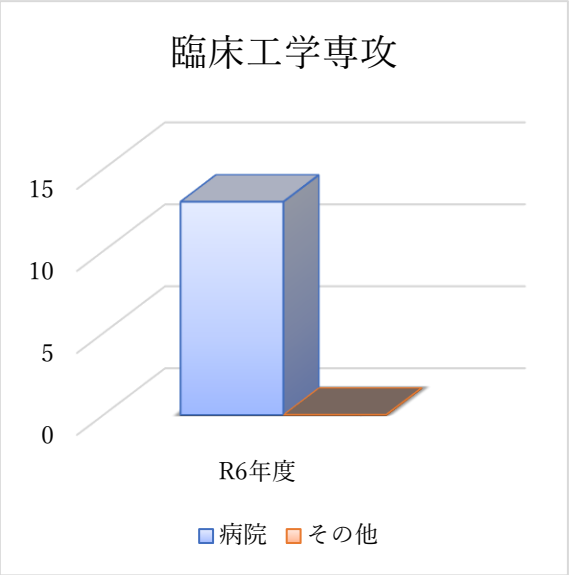
本学における理学療法士および作業療法士の群馬県内の有効求人倍率は、近年 5～11 倍程度と一見すると高いが、全国的に供給過多の傾向があり、本学の学生は就職先を群馬県外まで広げなければならないのも現実である。本学の求人推移を見ても、常時新たな求人は来ているものの、近年は横ばい傾向にあり、就職時の競争率は高くなることが考えられる。

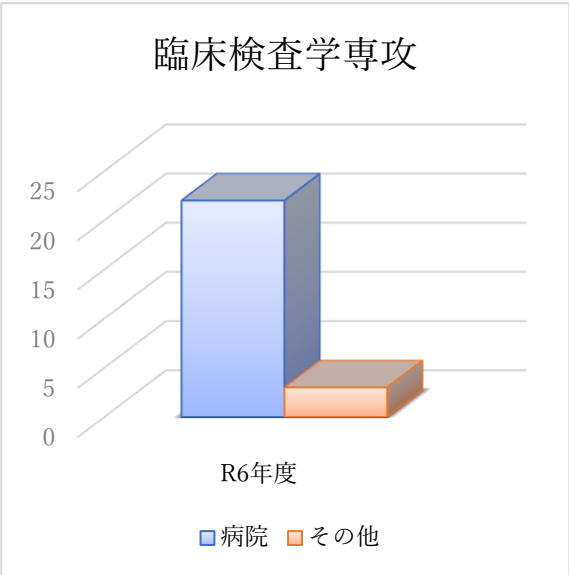
理学療法士の活躍の場は広がっており、主な就職先は病院となっているが、高齢化の進展に伴い、高齢者施設、予防リハビリや訪問リハビリなどのニーズも高まっている。また、スポーツ分野での活躍も注目されている。

作業療法士は病院、施設や地域包括ケアシステムにおける在宅支援など、活躍する場が増える一方で、国家資格を持つ人の数は増え続けている。また、介護系の施設では作業療法士不足により「急募」となっているなど、働く領域によって求人数に偏りが出てきている。本学における作業療法専攻の今年度の卒業生は全員が病院への就職となっている。

また、国は地域共生社会の実現という方針を示しており、理学療法士･作業療法士の活動する領域は、徐々に地域活動に根ざした職へ変遷していくことが予想される。

◆医療技術学部





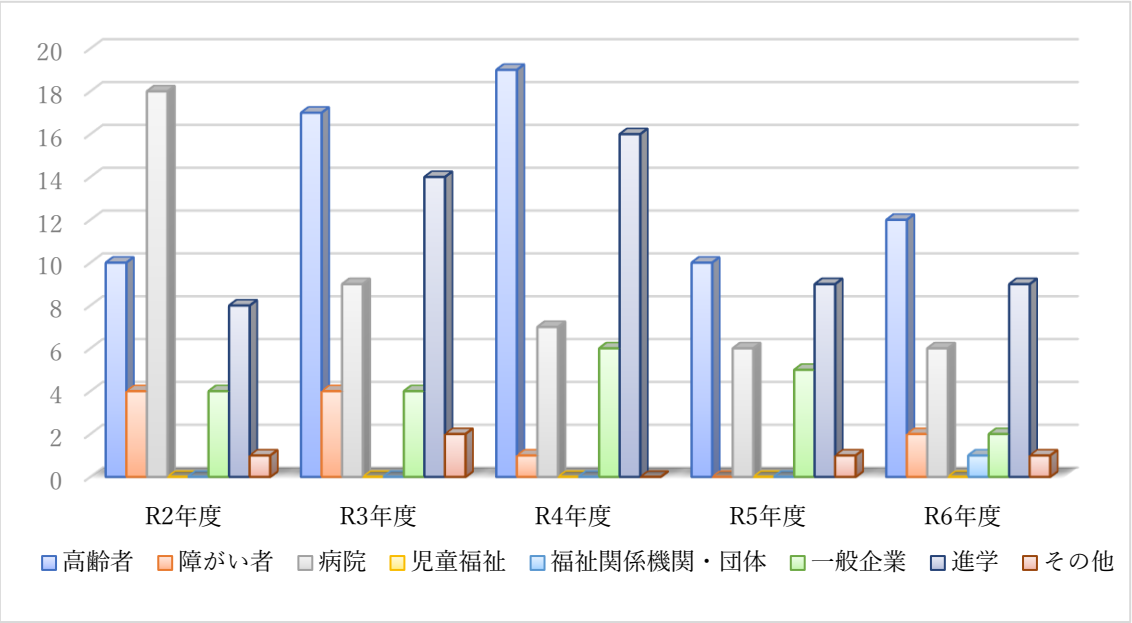
医療技術学部は第 1 期生の就職ということもあり、群馬県内の有効求人倍率は 1.62 倍と他学部に比べて極めて低くなっている。しかし、厚生労働省のデータによると全国における有効求人倍率も臨床検査技師が 1.7 倍、臨床工学技士が 1.6 倍となっており、ほぼ同程度となっている。

初の卒業年度であり、当初、県内の求人が少なかったことから、就職先の所在地は他の学部と比較して多岐にわたっている。主な就職先は病院となっているが、臨床検査学専攻においては、病院以外の検査機関にも就職している。また、本学の特徴である臨床検査技師と臨床工学技士のダブルライセンスを取得し就職に繋げた者もいた。

臨床検査技師の活躍の場は、病院の検査室だけでなく、クリニック、検診センター、臨床検査センター、さらには製薬メーカーや医療機器メーカーなど、多岐にわたることから、本学の就職活動においても幅を広げる必要がある。また、近年、治験関連の仕事や公務員（保健所など）、ペットの健康管理や治療のために臨床検査を行う動物病院等が増えていることから、活躍の場は広がっている。

臨床工学技士の就職先は、総合病院やクリニックなどの医療機関が一般的だが、医療機器メーカーや教育機関など、他の企業にも需要はある。特に、手術室や集中治療室（ICU、NICU）、透析クリニック、在宅医療支援など、高度医療機器を扱う現場で活躍の場を広げており、より広い視野を持って就職活動を支援したい。

◆短期大学部



短期大学部医療福祉学科の中には介護福祉コース及び医療事務・秘書コースがある。介護福祉コースは高齢者施設、医療事務秘書コースは病院等の医療事務として勤務する者が多い。一方、本学社会福祉学部 3 年次に編入学する学生や、短期大学部内の専攻科(診療情報管理教育)へ進学する学生もおり、令和 6 年度は全卒業生 33 人中 9 名となっている。

介護福祉士の主な就職先である高齢者向け施設においては特に需要が伸びており、社会の高齢化に伴って施設数も利用者数も増加していることから、今後もさらに求人数の増加が予想される。令和 6 年度において、本学の介護福祉士の有効求人倍率（群馬県内）は 48 倍以上と非常に高い値となっている。社会の高齢化に伴い介護職における人手不足は相変わらず深刻な状況にあることが伺える。また、介護福祉士の国家資格を必須とする施設もあり、専門的な介護の知識が求められている。

医療事務・秘書コースでは、求人数が少ないことや、長く勤められる職業であり採用枠になかなか空きが出ないことなどから、競争率は高い。総合病院の医療事務だけでなく、歯科、眼科や皮膚科などの単科病院やクリニックへの就職も視野に入れ、就職活動をする必要がある。また、ドラックストア等へ「登録販売者」の資格を活かし就職する者や、専攻科にて「診療情報管理士」の資格を取得し就職に繋げる者もいる。